

## 銀河鉄道の夜(信長貴富)

聞くたびにモチベーションが高くなっている。ドップラー効果や曲調の変化、言葉が重なることによる子音の効果など、取り組みがよいある曲。合唱に親しみのない人でも興味を持って聴いてくれそう。歌い手としても聴き手としても楽しめるステージになると思う。

音の難しさとしては、やや難しいができるはず。

- ・最初の女声はソプラノとアルトで乖離しそう。

特に春修羅で暗く下に落とすような発声をやるが多かったので、ソプラノとあいにくい声質になっている。うまく声質を揃えて遠近感を出したい。

- ・強弱は他パートを聞きつつ相対的に作る必要ある。耳が必要。

- ・16 ページ以降の日本的な音の運び 発声はどう変える？

- ・#80 以降は母音を固めすぎないようにしたい。母音の硬さと響きのバランス。cresc., decresc. で o がぶれないように。和音をきっちりはめることで生まれる音の効果が失われないようにしたい。

- ・#88 以降 f のタイミングや長さが大事。音楽が後ろに引っ張られないようにしたい。

- ・J はドップラー効果が使われている。すごく面白い。最初に書いた女声の声の乖離がネックになってくると思う。

- ・k 喋ることに夢中になって転ばないようにする。

- ・ガタンコ部分は、ピアノのと一緒に刻む感じや、g 子音の効果をうまく利用したい。

- ・レガートの部分は流れるようなピアノ感じて作りたい。

- ・T 明るい白い光が差してくるような感じがすごく好き。光につつまれるような感覚がある。

- ・L は歌の音形がピアノに引き継がれている。ピアノと一体となった音楽を目指したい。

- ・W ルやレで低声だけになったときに声が届きにくくなり言葉の変な凹凸がでないようにしたい
- ・音源の「ケンタウルスつゆをふらせ」の E の音が浮いているのが気になる。掘らないようにすると音形的にそうになってしまうのか。

## 祈る(三宅悠太)

語りが印象的。語りの「できなくてはできない」という日本語が、日常的にはあまり聞かない言葉なので不思議。初めて音源を聴いた時、ん? となった。多分お客さんもそう感じると思う。

ヴォカリーズをどう作るのがかなり大事になってくる。パートごとに音圧が違いすぎると作曲者が狙っているような音響効果が出ないと思う。柏葉と一緒に動くところで音色や母音が揃わないことが多々あるので、この曲に取り組むことで改善できたらと思う。

- ・吸気音、呼気音は春修羅を生かせる部分もあると思う。だが春修羅の時と違って一人一人バラバラではなくせめて方向性は一緒にしたい。特に最初の tutti.
- ・ポルタメントはそのうねりによって曲の世界や周りの景色を変える感じにしたい。
- ・#30,31 のピアノの 5 連符が好き。歌の世界観とピアノの世界観が乖離しないようにしたい。
- ・春修羅でもやったようにピアノとの位置関係(譜面上の意味でも音響効果の意味でも)を考える必要がある。5 連符はきっちり合わせたい。
- ・柏葉(他パートのことはあまりわからないけど少なくともアルト)はヴォカリーズでフレーズを作るとか、空間にうねりを作り出すとか、意図のあるヴォカリーズを歌うことに関してはまだまだ伸びしろがあると思うので、研究していきたい。
- ・5、3 連符の違いや、これによって生まれる音楽の揺れを大事にしたい。
- ・音源の語りはあまり好みではない。(もう少しいい意味で淡々としていてもいいと思う。)
- ・L の雰囲気の変化はしっかり出したい。

- ・ N 弱音からの cresc.は音楽がまた動き出す感じがする。
- ・ O 6 連符と 8 分の関係性をしっかり捉えられるように
- ・ 「語る」の重なり合い。言葉大事にしたい。
- ・ 「懐かしい死者たちが語る」ユニゾン印象的
- ・ Q の遠近感。ソプラノとアルトの声質どうするか。
- ・ R 以降の歌い方は語るように歌いたい。よく今井先生がおっしゃっているような、歌うとなった瞬間構えて声を作ってしまう感じがあまりないようにしたい。
- ・ B.O.で作る音楽の揺らぎは息をどう流すかが大事。

## フィリピン音楽の窓(オムニバス)

二曲がかなり対照的。発声や曲の雰囲気をしっかり変えられるかが大事。前後の曲に引っ張られて曲の相対的な立ち位置が宙ぶらりんになるとオムニバスの面白さがなくなってしまう。下に書いたこととかぶるが、音源を聴いた感じの音の方向性としては、Doxologia は音が上からお客さんに届く感じ、Gloria parti はステージの方から届く感じがした。

### Doxologia

- ・ 音の難度は普通。音が取れると思うが同音連打や下降音形の中で響きを落とさずに歌えるかが重要になってくる。
- ・ 最初下降音形は柔らかな光が揺らいでいるイメージ。salus の s の長さや質、そして a の形(音源は e の成分も入ってる感じがする)によっては風のようなものを感じさせることもできそう。
- ・ prayerful が表現できるよう神聖な響きに仕上げたい。そのためには音に雑味がないことが大事。鼻腔の響きを使って聴き手の上から音が優しく降ってくるような感じにしたい。
- ・ #33 の 2 拍目までどこかのパートで B がなり続ける。その後も B の音が高い頻度で出てくる。重要な意味がありそう。(B がなり続けることで下降音形が引き立っているのは間違いない。) アンサンブルのときに B の音だけつなぎ続ける練習があっても面白いかも。

- ・#36 以降音源はベースと他のパートの母音が違うように感じた。そういう表現もあるのかもしれないが、個人的にはもう少し近い方が好み。
- ・#44 以降の女声は絶対に大きくしないでほしいという作曲者の強い意思が感じられるので丁寧に取り組みたい。sempre piano を守りながらも benedictio や claritas の掛け合いは埋もれないようにしたい。
- ・アルトとソプラノで休符の後の benedictio の語頭が大文字か小文字かが異なるのはどうして？

## Gloria patri

- ・テンポにおいてもレガート感においても 1 とはかなり対照的。歌手はしっかり切り替えたい。
- ・1 とは対照的に鼻腔の響きだけに頼らず、口腔の響きも使った歌い方が必要。
- ・テンポ感や曲の推進力を歌手一人一人がどれだけ発信できるかが大切。かといって自分だけのテンポで進むとかなり音楽が混雑するので、発信しつつ、指揮者の交通整理に従いつつ、周りを聞きつつ・・・同時にやらないといけないことがたくさんある。
- ・div.が多くて他パートが何をしているのか把握するのにかなり時間がかかると思う。
- ・#35 からの女声。個人的にはエスニック感があるなと思った。自由に歌っていると言われたら in principio の o を多少下からずり上げて歌いたくなる。
- ・#35 以降は単語の中で同じ母音が続くので、それをうまく使えば Espressivo な感じが出せそう。
- ・#47~49 は Nunc の最後のような集中力が必要。
- ・#54 は#35 と同じようなモチーフが使われている感じがある。(詩が一緒なので当たり前かもしれないが)
- ・テンポの速いところは言葉が絶対に転ぶ。意外と Gloria も鬼門。ゴリラに聞こえる。

## 光と闇(オムニバス)

作曲者が一緒であるぶん、より対照性が強調されている。フィリピンの窓の対照性と違う点は、フィリピンの窓が全くベクトルの違う 2 曲であるのに対して、

光と闇は、光と闇という、一方が存在しないと他方も存在しない表裏一体の関係でありながら絶対に混じり合わない特殊な対照性を持つ二つをテーマにしている点である。

## Lux aurumque

- ・音は、Alto 上下ともに簡単。
- ・最初の音アルトが消えないようにバランスを整えたい。男声がですぎてしまうとソプラノが飛び出ているように感じる。
- ・最初の Lux の cresc.、decresc. は暗闇の中でほのかな光が徐々に明るくなってまた暗くなっていくように自然な形を目指したい。
- ・↑に関して、アルトは跳躍するため、ヴォイスチェンジや母音の固さの変化で不自然にならないようにしたい。(アルトは音が上がってくると母音が固くなりがちなので)
- ・パートの垣根をこえて母音の形を揃えていく丁寧な作業が必要
- ・u 母音でのクラスターと a 母音でのクラスターの色の違いも出したい
- ・#17,20 のように pu の発語による効果など研究すると面白いかも
- ・#24 からの女声で動くところはソプ、アルトが乖離しないように(定演期は基礎練で女声発声があってもいいなと思っています。)
- ・#10 のクラスターが凄く好き。
- ・転調後の安らぐ感じが好き。
- ・#36 の四分音符→四分休符の部分は、音源は若干ミヨシっぽく聞こえる。ほのかな灯りを感じて好み。
- ・クラスターはアンサンブルでの練習があつてこそなので、少し全体の練習で時間をかけたい。
- ・耳に全然自信がないが、音源は一般的な演奏に比べてベースの音量が大きい気がした。嫌という訳ではなく、むしろベースがしっかりなっていると和音がハマりやすいと思うのですが、新宿文化センターがどのように響くのかも考慮して音量バランスを整えていく必要があると思った。

## Nox aurumque

- ・アルトは全体的に音域が低い。そのわりにオクターブ跳躍が2回、lowA からBへの跳躍があるのでかなりネックになりそう。

- ・アルトは div.が多い。テナーはアルトに比べたら div.が少ないので、声量が負けそう。声量バランスを整えたい。
- ・ Con moto からの緊張感。
- ・ #26 アルトの音をソプ上下より高くした意図が気になる。
- ・ #48 女声二拍三連のクラスターは決めたい。
- ・ #54 からのソプ下とアルトの音の動きによる落下感(からの広がり)は、アルトは四分で表拍を歌いながらもソプ下の音の流れの中にありたいので、互いが聞きあう必要がある。
- ・ アルト内で半音あるいは全音でぶつかるところは、お互い当てに行こうとするとただ母音がきつくなってしまうそう。母音を固めるのではなく、音自体の芯を作れるように練習したい。
- ・ Lux と同様、メッサ・ディ・ヴォーチェは力まないように自然に。

### 森の憧憬(オムニバス)

完成像が最後まで絶対に見えないというのが特徴だと思う。というのも、選曲資料にある通り、このオムニバスは空間構成がテーマになっていて当日のお客さんの入りやその他色々なことに影響されるから(特に一曲目)。二曲ともに言えるのは、空間構成をテーマにするのであれば、毎回の練習において、その時の場所で(音実か舞芸かでもかなり変わる)、その時のメンバーで、うまく空間を音楽で満たせるような練習を積み重ねていければ、本番もそういう意識で臨めるはずということだと思う。

### kondalilla

- ・ 個人のポテンシャル(メンタル面も含めて)にかなり影響される。
- ・ 声質としては、意図しない形で息が漏れてしまうと、途端に人間の声という感じが強くなってしまって森林の中にいるという体感が得られない演奏になってしまう。
- ・ 音域が辛いという女声はソプラノも含め、3 段目にはいった方がいいと思う。自分の声のもっとも美しい部分が出るような音域で全員が歌えることが理想。上 2 段の人数が多少少ない方がバランスがいい。
- ・ 女声を三分割する場合、アルトを全員 3 段目にしてソプラノの一部も 3 段目

に持ってくるのであれば、パー練は3段目を歌う人を私が担当して、1,2段目をさとちゃんが担当する？(色々やり方はあるそう。途中からSAのパート分けが明記されているのでここ以降をどう扱うかにもよる。)

- ・パー練の振り分け方はともかく、実際の練習方法が具体的にあまり浮かんでいない。

- ・練習は、最初の方は毎回違うタイミングでるようにしてだんだん自分が入るタイミングを大体の範囲で確定させていくのか、それとも本番まで完全に毎回アドリブでいくのか。

- ・練習に来られなかった人が辛そう。みんな各々の動きをするので練習に出られなかった人が置いていかれないようにしたい。

### little tree

- ・この曲が選曲案として出された時からかなりモチベーションは高い。
  - ・ソプラノ単独で始まるメロディーが美しすぎる。ここだけでもかなり聴き手の心を惹きつけられると思う。
  - ・#9 Con moto ピアノの和音が歌の和音と一緒に。音源ではピアノから歌への音色の移り変わりがとてもうまい。
  - ・#9 found の f の息の使い方大事
  - ・#1 女声の三連符と8分の微妙な言葉のズレが絶妙な音楽の揺れを作っている。
  - ・#24 からのアルト主旋と#30 からのソプラノ主旋の対比を少しだけ見せたい。具体的にはアルトはほとんど一音に一単語割り振られているが、ソプラノは二、三音につき1単語でスラーも使われている。アルトは子音をしっかり出して、ソプラノは少しレガートで歌うと効果がしっかり出ると思う。
  - ・tum の音響効果はあんまり大きい。森の水溜りを生き物がとびはねている感じ。生き生きと仕上げたい。
- アルトが重要な主旋を歌うので、自分からフレーズを作る力が必要となる。アルトは自信の問題も大きい。

### drei gesange(max reger)

端的に所感を述べるなら難しすぎる。集中力と体力と何より根気がいる。ドイツ語選択だったのでドイツ語自体に抵抗はない。だが、ドイツ語は発音する時の息

の回し方や口腔の使い方が独特(r,c やウムラウト)なので練習がかなり必要だし、変な癖がついて他の曲に影響しそう。どこまで正しい発音を求めるのかわからないと練習が組み立てづらい。外国語曲を中高でやってこなかったので、詩の理解などをどこまで求めるのかなど練習の全体像が見えてない。

### Der Mensch lebt und bestehet nur eine kleine Zeit

- ・ Chor I のアルトは単音なら割と音は取りやすい。アンサンブルになった瞬間音がわからなくなる、あなたのために歌うべくと同じような現象が起こりそう。
- ・ Chor II は音が難しい。
- ・ 音域的には Chor I がアルト上、II がアルト下だが、II は跳躍も多く、かつ跳躍がヴォイスチェンジを跨いでいるので音程に不安。
- ・ ゆっくり進むので息をコントロールしないとフレーズの途中で息切れして聞いていて疲れる音楽になりそう。
- ・ 持久力がないと強弱がつかれない
- ・ 和音を整えるのに相当時間がかかりそう。
- ・ 和音の知識があまりないので教えられる自信は正直ない

### Morgensang

- ・ Alto 音がかなり難しい。特に今年のアルトは去年に比べると調声感が薄いので和音を完璧にはめるのは厳しい。
- ・ Sop II も音は難しいが Alto よりは取りやすい。音域的にも Alto 上なら歌えそう。だが跳躍でズリ上げないように背中を意識して歌う練習が必要
- ・ 曲の流れが緩まるところがはっきりしているのでそれ以外のところで後ろに引っ張られないように息を流したい。
- ・ 発音で息を取られすぎないようにコントロールする必要がある。
- ・ 最後の 2 小節はテンポの共有が難しそう。
- ・ フェルマータでのばす時の子音の処理のタイミングを揃えるのが難しそう。
- ・ 裏拍から言葉が始まるのが最後の SopII と Alto だけでそれ以外は全て表拍であるぶん推進力が失われないようにしたい。

### Nachtlied

- ・ I,II と違って div.がないので時間をかければ普通に音は取れると思う。



- ・ 課題は I と共通する部分が多い。
- ・ 高尚な響きを保ちつつ、その中での表情の変化をどれだけつけられるかで、聴き手が持つ印象もかなり変わると思う。